



本資料は、米国アッヴィ社が2019年4月25日(米国時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳し、2019年5月10日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2019年5月10日

アッヴィ、2019年第1四半期の業績を発表

- 2019年第1四半期の希薄化EPSはGAAPベースで1.65ドルでした。調整後希薄化EPSは14.4%増の2.14ドルでした。
- 2019年第1四半期の売上高は、為替レート変動による1.7%のマイナス影響を除く、営業ベースで0.4%増の78億2,800万ドルでした。
- 2019年第1四半期のヒュミラ®の米国での売上高は、7.1%増の32億1,500万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、為替レート変動による4.9%のマイナス影響を除く、営業ベースで23.0%減の12億3,100万ドルでした。
- 2019年第1四半期の血液腫瘍領域の売上高は、為替レート変動による0.4%のマイナス影響を除く、営業ベースで43.2%増の11億7,300万ドルでした。第1四半期のイムブルピカ®*の売上高は34.0%増の10億2,200万ドルでした。VENCLEXTA(一般名ベネトクラクス)は、1億5,100万ドルでした。
- 2019年第1四半期のHCVの全世界の売上高は、為替レート変動による2.2%のマイナス影響を除く、営業ベースで9.1%減の8億1,500万ドルでした。米国のHCVの売上高は、17.3%増の4億300万ドルでした。
- スキリージ®(一般名リサンキズマブ)について、中等症から重症の尋常性乾癬の適応で承認を取得。ベネトクラクスについて、治療歴のない慢性リンパ性白血病の治療薬として、FDAから画期的治療薬(ブレイクスルー・セラピー)および優先審査の指定を取得
- 2019年第1四半期のGAPPベースの希薄化EPSの見通しを7.26~7.36ドルと発表しました。2019年の調整後希薄化EPSの見通しを、中間値における11.0%の上昇を反映し、8.65~8.75から8.73~8.83へ上方修正しました。

*日本ではヤンセンファーマ株式会社が販売



米国イリノイ州ノースシカゴ、2019年4月25日—アッヴィ(NYSE:ABBV)は、2019年第1四半期(2019年3月31日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼 CEO のリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「第1四半期の売上高および利益ともに予想を上回る結果となり、幸先のよいスタートとなりました。さらに、スキリージ®の承認などパイプラインの進捗も加速しました。スキリージ®は、乾癬の新しい標準治療となる可能性があり、アッヴィにとって長期的な機会を生む製品となり得ます。私たちは、この好業績に非常に満足しており、事業が堅調に展開していることを踏まえ、通年のガイダンスを引き上げてまいります」

第1四半期の業績

- 全世界の売上高は、報告ベースで1.3%減、営業ベースで0.4%増の、78億2,800万ドルでした。
- ヒュミラ®の全世界での売上高は、報告ベースで5.6%減、営業ベースで3.8%減の、44億4,600万ドルでした。米国内でのヒュミラ®の売上高は7.1%増の32億1,500万ドルでした。米国外では、バイオシミラーの影響を受け、報告ベースで27.9%減、営業ベースで23.0%減の12億3,100万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の全世界での売上高は、報告ベースで42.8%増、営業ベースで43.2%増の11億7,300万ドルでした。イムブルビカ®の売上高は、10億2,200万ドルで、その内、米国内は8億2,900万ドル、米国外は1億9,300万ドルでした。VENCLEXTA(一般名ベネトクラクス)の全世界での売上高は、1億5,100万ドルでした。
- HCVの全世界での売上高は、報告ベースで11.3%減、営業ベースで9.1%減の8億1,500万ドルでした。米国では、17.3%増の4億300万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は78.4%でした。調整後売上総利益率は83.3%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、21.5%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は20.0%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、16.5%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、パイプラインへの投資を反映し、15.3%となりました。
- GAAPベースで、営業利益率は38.5%でした。調整後営業利益率は48.1%でした。
- GAAPベースで、純支払利息は3億2,500万ドルでした。GAAPベースの税率は、3.5%でした。調整後の税率は、7.9%でした。
- 希薄化1株当たり利益はGAAPベースで1.65ドルでした。特定項目を除く、調整後希薄化EPSは、前年同期比、14.4%増の2.14ドルでした。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)

<https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-first-quarter-2019-financial-results.htm>



アッヴィについて

アッヴィは、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業です。世界で最も複雑かつ深刻な疾患に対する、革新的な先進治療薬の開発を行っています。その専門知識、献身的な社員、イノベーション実現に向けた独自の手法を通じて、自己免疫疾患、がん、C型慢性肝炎などのウイルス感染症およびニューロサイエンスの4つの主要治療領域での治療を大きく向上させることをミッションに掲げています。世界中の人々が持つ健康上の課題への解決策を進歩させるため、75カ国以上の国でアッヴィ社員が日々取り組んでいます。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。Twitter アカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

アッヴィ 今後の見通しに関する記述

本リリースにおける記載には、1995年米国私募証券訴訟改革法に示される「今後の見通しに関する記述」が含まれています。「確信」「期待」「予測」「計画」という言葉およびそれに類する表現は、一般に将来予想に関する記述となります。当社からの注意喚起として、このような将来予想に関する記述はリスクおよび不確実性による影響を受け、実際の結果と将来予想に関する記述での予測との間に大幅な相違が生じる可能性があります。このようなリスクおよび不確実性には、知的財産に対する脅威、他社製品との競合、研究および開発プロセスに特有の困難、敵対的訴訟または政府による介入、業界に関連する法律および規制の変更などがあります。

アッヴィの経営に影響を及ぼす可能性のある経済、競合状況、政府、科学技術およびその他の要因については、Securities and Exchange Commission (米国証券取引委員会) に提出済みのアッヴィの2018年度アニュアルレポート(10-K書式)の1A項「リスク要因」に記載しています。アッヴィは、法律で要求される場合を除き、本リリースの発表後に発生した出来事または変化によって、今後の見通しに関する記述を更新する義務を負わないものとします。